

基準範囲変更及び受託中止のお知らせ

謹啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。
この度、下記検査項目につきまして、検査内容の変更及び検査の受託を中止させていただくことになりましたので、ご案内申し上げます。
誠に勝手ではございますが、弊社事情ご賢察の上、何卒宜しくお願い申し上げます。
敬 具

2009年1月

基準範囲変更項目

アミラーゼ（血清）
アミラーゼ（時間尿）
アミラーゼ（随時尿）
コリンエステラーゼ
フェリチン精密
尿糖（蓄尿）

変更期日：2009年4月1日(水)受付分より

検査の受託中止

ガラス板法 定性
ガラス板法 定量
凝集法 定性
凝集法 定量

中止期日：2009年4月1日(水)受付分より

代替項目：RPR法 定性
RPR法 定量

詳細につきましては裏面をご参照下さい。

検査内容の変更

下記のように基準範囲の見直しをさせていただきます。

項目	新	現行	変更理由
アミラーゼ(血清)	37～125 IU/ℓ	60～190 IU/ℓ	JSCC 標準化対応法に変更
アミラーゼ(時間尿)	30 以下 IU/h	46 以下 IU/h	
アミラーゼ(随時尿)	53～703 IU/ℓ	160～960 IU/ℓ	
コリンエステラーゼ	M:240～495 U/ℓ F:250～452 U/ℓ	3700～7800 IU/ℓ	JSCC 標準化対応法に変更
フェリチン精密	M:13～277 ng/mℓ F:5～152 ng/mℓ	M:15～220 ng/mℓ F:10～80 ng/mℓ	基準範囲の見直し
尿糖(蓄尿)	40～85 mg/day	0.13～0.50 g/day	基準範囲の見直し

検査の受託中止

さて、ご周知の通り梅毒血清反応の脂質抗体検査（STS）には、ガラス版法、RPR法、凝集法などがございます。この梅毒血清反応について日本性感染症学会より、「第1期梅毒の血清反応はSTS法（ガラス版法、RPR法、凝集法）のうち一法、及びTPHA法あるいはFTA-ABS法の定性を実施する。」と記載されております。

この度弊社では、STS抗原に対してIgM抗体が主に反応することにより治療効果を反映する脂質抗体検査として、RPR法に統合させていただくこととなりましたので、ご案内申し上げます。

先生方には大変ご迷惑をお掛けいたしますが、事情ご理解の上、何卒ご了承賜りますようお願い申し上げます。

◆検査中止項目

ガラス板法 定性

ガラス板法 定量

凝集法 定性

凝集法 定量

中止期日：2009年4月1日(水)受付分より

◆代替項目

RPR法 定性

RPR法 定量